

[月刊] 1988年6月18日第三種郵便物認可

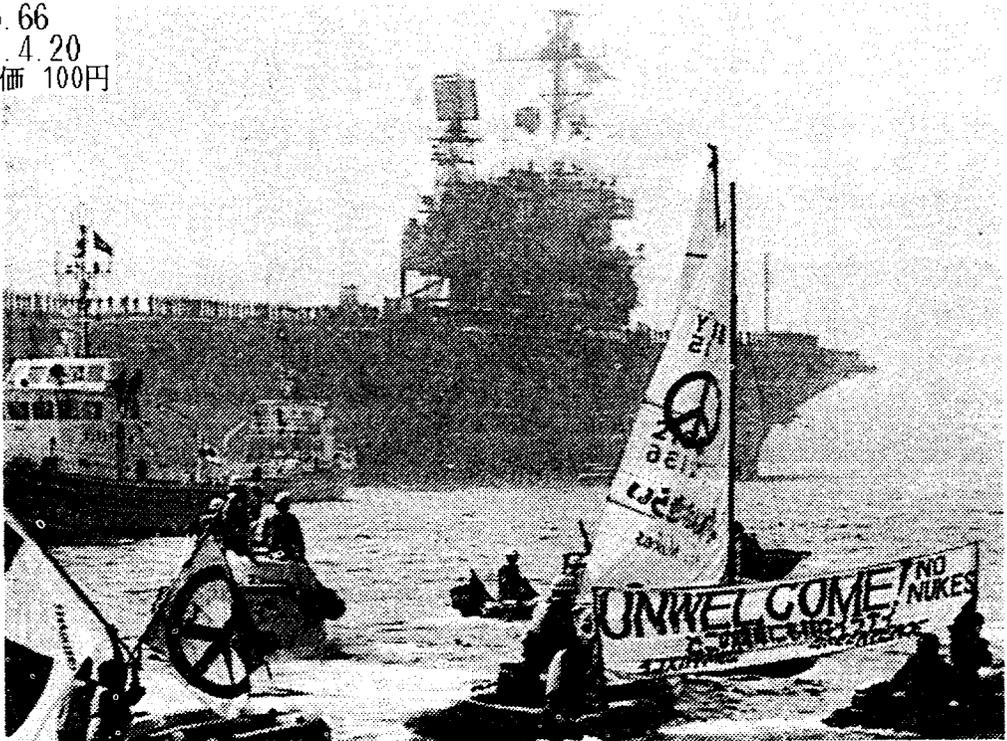
トマ喰い虫

〒150 東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502
トマ喰い虫社

☎03(498)6095 雑談
045(563)5101 いつでも
FAX045(563)9907

郵便振替 東京6-136148

No. 66
91.4.20
定価 100円



横須賀港に入る空母ミッドウェーに抗議する市民団体

4.17「毎日」横浜版

湾岸戦争が帰ってきたーミッドウェーの帰港に抗議 掃海艇をペルシャ湾に送るな！

NEPA訴訟いよいよ提訴／呉と湾岸戦争
反戦運動はどこにいるのか (ルース・ローゼン)

[発行] トマホークの配備を許すな！ 全国運動

●維持会員 (月間会費)

団体 1口 2000円

個人 1口 1000円

●参加会員 (月間会費)

団体 1口 1000円

個人 1口 500円

●通信会員

年間 1口

2000円

あなたも仲間！ (会費は本誌購読料を含みます)

横須賀NEPA訴訟

服部 学 ● NEPAの会

いよいよ六月に提訴 全国から支援を!

突破口が 見えてきた

アメリカのNEPA(国家環境政策法)という法律を使って、核艦船の横須賀への入港差し止めを、アメリカの裁判所に提訴しようとするNEPAの会の活動が始まったのは、一昨年の七月のことでした。勉強をしていく中で、海外適用の問題、安全保障にかかわる適用除外の問題、核兵器の存在を肯定も否定もしないという政策等々、窓口の狭い条件がたたくさん重なっており、かなり難しい裁判であることがわかってきました。しかし何とか門前払いをくわれないように突破口をつくれればやれるという見通しもついてきました。折しも、横須賀を母港とする空母ミッドウェイ(湾岸戦争の立役者)が、より大型のインディペンデンスと交替するという発表がありました。

しかし湾岸戦争をめぐるアメリカ国内の世論などの反映もあつてか、これまで交渉してきた弁護士さんは、勝ち目が少ないということらしく、少し消極的になってきました。そこで今年の一月、呉東弁護士をはじめとするNEPAの会の代表が渡米して交渉した結果、これまでの弁護士さんから新しい弁護士さんを紹介してもらいました。

弁護士さんも決まり 六月提訴へ

このエドワード・リー・ロジャースさんはとても積極的な人で、こちらからファックスで質問すると、翌日にはかならず返事がくる

というタイプの弁護士さんです。NEPAの会ではロジャースさんをNEPA裁判の担当弁護士としてお願いすることを決め、一度現地を見てもらおうということで、三月二十四日から三十一日まで、横須賀に来てもらいました。アイリーン婦人(環境生物学の先生)と共に来日したロジャースさんは、横須賀、逗子、厚木などを熱心に見てまわり、たたくさんの質問をし、私たちの運動についてもかなりよく理解してくれたようです。そして数回の打ち合わせで、彼なりの戦略をシャープに展開してくれました。

裁判の切り口と 段取り

その結果、
一、横須賀海軍基地の問題(とくに海難事故の危険性)および厚木飛行場の問題(とくにNLP騒音と事故)を柱とする。
二、それぞれの環境被害の深刻さを展開し、米海軍にそれぞれについてのEIS(環境影響評価書)の作成を求める。
三、核兵器、原潜などの問題も、海難事故による危険性のところで展開していけるのである。
という内容が確認されました。

そして裁判提起までの段取りとして、今年夏に迫ったインディペンデンスの配備の前に、四月中に米海軍に対しEISの作成を求める手紙を書き、十分な回答がえられなければ、六月にワシントンの裁判所に訴訟を提起することとなりました。これまで少し足踏みしていたのが、急にかけ足で走り出さなければならなくなりました。

全国からの 支援を!

全国の皆さんにも是非支援していただきたいと思ひます。お願いしたいことはいろいろあります。

第一は、原告団にできるだけ多くの団体が加わっていただきたいのです。これまで私たちは多くの個人が思っていたのですが、ロジャースさんの方針は個人だけでなく団体が多い方が良いということでした。

第二は、たたくさんの文書や資料の翻訳や通訳を手伝っていただけると、たいへんありがたいのですが。
第三には、できるだけカンパをお願いしたいと思っています。

第四に、実はこれが一番大事なことだと思ひますが、運動を広げていただくことです。

裁判の手続きだけで基地がなくなるとは思ひません。また環境問題だけで基地問題がすべて解決できると思ひません。しかし、いままであまり取り上げられていなかった問題を通じて運動を広げることができれば、それは基地をなくさせる大きな力になると思ひます。そのことは、核トマホーク搭載戦艦ミズーリのサンフランシスコ母港化の問題がおこったとき、NEPAの裁判提訴をきっかけとして反対運動が大きく広がりました(ジャクソン・デイビス博士の核事故被害の報告書などが力になった)、実質的に母港化を止めることができました。

から トマホーク、弾薬輸送、そして掃海艇

基地の町の「湾岸戦争」は

終わらない

湯浅一郎

ピースリンク広島・呉・岩国

統一地方選の宣伝カーが名前を連呼する町を歩いて、日本人の利己主義と利己主義を強く思う。半年にわたった湾岸危機・戦争の体験は一人一人のなかにどのように刻まれ、また刻まれていないのか。基地のある町でも戦争

基地問題は選挙の争点にすらならない。仕事も手につかない毎日
ピースリンクは、仕事も手につかない思い



にかられて精一杯行動した。広島では開戦から毎日昼に原爆ドームで座り込み、停戦まで四十数日つづけた。呉では米軍秋月弾薬廠からの爆弾の輸送に反対する一連の行動を繰り返した。

しかし残念ながら状況は変えられなかった。米国のシナリオ通りの戦争を許したことは世界の民衆の敗北である。一番戦争をしたがつて、かつ戦争をして得をした国がどこかは明白である。国連に錦の御旗を求め、戦費はドイツ・日本などから出させ、たまった爆弾の棚卸しよろしく軍事行動は一手に引き受ける。ポスト冷戦の世界秩序を米国主導で進める体制が作られたことは本当に口惜しい。

昨年八月二日のクウェート侵攻の日、私たちはグリーンピースのベガ号と核のない海キヤンペーンで多忙をきわめていた。その時、まさか半年後に世界中をまきこんだ戦争が起るとは想像だにしなかった。今ふりかえる戦争に対する想像力を欠いた反戦運動をしていたのではないか。その甘さは開戦の直前までひきずり、何回か気の緩みを産みだした。とくに年末からデッドラインの一月十五日までの間、戦争は避けられるのではないかという思いがどこかにあった。

トマホークが使われた

私たちは二年前、ヒロシマの基地が戦争での使用を前提にして常に体制を整えており、真に平和・非核を訴えるためにはヒロシマの足下に展開する巨大な基地群をなくさねばねばならないと主張してピースリンクを結成した。私たちが懸念したことが湾岸戦争でことごとく実現してしまった。そのたびに茫然とする体験をした。

一月十七日の朝、下の子を保育園にあづけるべく準備していた私は「何かが燃えていませぬ。しかし飛行機は見えませぬ。あ、また火の手があたりました」という声に聞きいった。米軍CNNの特派員がどちらかというと変に落ち着いた口調で開戦の第一報を伝えていた。「飛行機が見えない?」。その瞬間、トマホークが使われたと直感。七年前、戦争のしきいを低くしてしまう武器として何としても配備させてはならないと運動を始めた反トマホーク運動。トマホーク配備は、基地のある町に住んでいた私が初めて反戦・反基地の闘いに踏み出したきっかけであった。以後、寝食を忘れて呉の基地をなくすべく動き回った。核トマホークが使われなかったとはいえ、私たちが危惧したとおり戦争の端緒を開くもの

呉の弾薬も使われた

その数日後、一月二十日の夕方、広弾薬庫から佐世保に向けて空軍用の弾薬が陸上輸送され、戦場へと持ち出された。四方に「火」という看板を付けた計七台の大型トレーラーは夕方の混雑のなか呉市内を通りすぎ、瀬戸内海の沿岸を人知れず突っ走った。これを事前に知っていたのは呉市当局のみである。広島市も何も知らされずに戦争向けの爆弾が通過した。これは広島が戦争に関わり、戦争を黙認している時事を象徴する出来事だ。広弾薬庫のゲートで抗議する私たちの目の前を大量殺戮の道具が持ち出されていく瞬間にはえも言えぬ口惜しさがこみあげてきた。警察は大挙して警備にあたり、「人殺しの道具が人殺しのために持ち出されていること」をわれわれの税金で守った。

そして米国が地上戦争を始めた二月二十四日、イラクのクウェート侵攻以前に呉で海上保管された弾薬が地上戦に使われるだろうと思つと、いても立ってもいられなくなった。昨年四月から八月にかけて、広弾薬庫の前面海域ではオーストラル・レインボウという弾薬輸送船が持ち込んだ弾薬が海に放置され、弾

薬の検査・点検が行われた。その後、同船はインド洋のディエゴガルシア基地へ戻った。ところが戦争勃発とともに同船はペルシヤ湾へ急行した。そして地上戦が始まったのである。

掃海艇派遣を許さない

一方、呉のもうひとつの基地である海上自衛隊はかつてない形で問題になった。国連平和協力で多国籍軍の後方支援部隊として海上自衛隊の補給艦を派遣させようという話が持ち上がった。その最有力候補が呉にいる「とわだ」「さがみ」であった。被爆県から戦後発の日本軍の派兵をさせまいと人々は動いた。幸い多くの人々の派遣反対の声で同法案は廃案となった。

開戦後、今度は難民救済と称して輸送機の派遣が持ち出され、民間機のチャーター運動の盛り上がりによってこれもまた頓挫。そこへ最後の手段として出てきたのが、ペルシヤ湾の機雷除去を銘打った掃海艇の派遣である。統一地方選挙の勝利を契機に政府は強引に決めようとしている。このままだと今月中には大勢は決まるだろう。戦後処理といえども、この間の自衛隊を海外に持ち出せる突破口作りに躍起になっている文脈で見れば、絶対に

許すわけにはいかない。仮に呉・横須賀の掃海艇が派遣されれば、「日本の有事」の概念が一気に変わってしまう。タンカーが通過する海、ひいてはアラブの油田の安全自体が日本の有事ということになってしまう。そこに自衛隊の海外派兵への理論的必要性が浮かび上がってくる。更に掃海艇にもなう事故でもあれば、自衛隊は一気に英雄になる。

基地のある町であるかぎり、同様の事態が世界のおどこかで起れば同じような事が繰り返されるのは必至だ。米軍、自衛隊ともども呉が戦争を支え、戦争の拠点になり続けるのか否かは、ひとえに基地をなくせるかどうかにかかっている。

プロテウス入港に抗議

停戦から間もない三月二十二日、呉には米潜水艦母艦プロテウスが入港した。この船は攻撃型原潜へトマホークを供給するもので核トマホーク搭載可能艦である。私たちは核トマホークの持ち込みは許さないと平和船団を出して海上から抗議した。雨の中七隻のゴムボートは果敢に巨大な軍艦に挑んだ。しかし私たちはこの時いつもと違うことを強調した。戦争で使われたのは「非核」トマホークである。イラクの民衆を殺戮した張本人は核では



なく、非核の通常兵器である以上、非核だから来てもいいとはならない。改めて全ての武器を問うプログラムを産み出し、それへ向けて着実な歩みをきざまなければならない。湾岸戦争の負の遺産を次の時代にどう生かしていくのか。事態対応型の運動から、基地をなくしていくための中期的な目標を定め、具体的なプログラムをもって反戦・反基地を進めねばならない。そのための教材づくりから始めようといま話し合っている。

動への反動は強い男への「媚び」の文化として表面化した。

さて、それでは平和運動はどのような役割を果たせるのだろうか。アメリカの政治的文化的土壌の上で意味のある力となるためには、「反戦運動」はより積極的な「平和運動」へと脱皮しなければならない。ジョージ・ブッシュの振りかざす「アメリカの覇権」モデルに対抗する、より良い集団的安全保障のビジョンを提案しなければならない。ブッシュ流「新世界秩序」に不快感を抱く政治家たちが、現在の好戦的ムードに抵抗しつづける。ために、彼らが必要としているのはこのような運動であろう。

● 対案を唱える行動を続けよう

戦争に反対する道徳を唱えることは、人殺しによらない紛争解決の方法を追求するという伝統を生き続けさせることに他ならない。真の意味での「新世界秩序」を達成するためには私たちは交渉と他国間の真の集団安全保障への世界的な支持を必要としている。人々はデモやビジル(プラカード)を持って街角

に立つ行動(訳者)には飽きていくかもしれない。しかしこれらの行為は、対案を唱える声を絶えさせないためにいつになっても必要である。さもなくば、社会はますます軍事化してしまうだろう。

● 「平和の配当」を求め続けよう

「『平和の配当』はいったいどうなっているのか」と絶えず声をあげつづけてよう。私たちは資源や財源を新型の武器のために浪費するという衝動とのきびしい闘いに備えなければならぬ。このために、私たちは国内における貧困の問題や環境破壊を焦点化する世論を絶えさせなければならない。新しい弾道ミサイルよりも良質な住宅や環境保護に、より熱意を抱く政治家を育てることも必要である。

● 反戦感情こそ最大の力

軍事的な冒険を抑え込む可能性のありかは煎じ詰めれば反戦の感情にしかない、ということを確認するべきである。軍部が湾岸戦争を粉飾し、報道を検閲したのには理由がある。それは、この反戦感情を封じ込めることであつたのは明白である。

開戦後数週間がたつとのが性別あるいは人種間の(戦争に対する感情の)ギャップが表面化した。女性と人種的マイノリティの意思表示は、時としてよく組織されていなかったとはいえ、潜在的な反戦感情を代表するも

のであつた。労働者、宗教団体、ラテン系、黒人、退役軍人、兵士の家族：これらの人々の反対行動は、反戦の声が政治的問題を軍事的に解決することに反対する誠実で愛国的な世論であることを明らかにした。

● パレスチナ問題の平和的解決を

湾岸戦争後の平和運動の最初の政治的目標の一つは、イスラエル-パレスチナ紛争の交渉による解決への支援と、中東地域への武器輸出の禁止である。しかし、平和運動は「イスラエル叩き」や反ユダヤ主義に訴えることに性急であつてはならない。また、第三世界へのロマンティックな思い入れに酔いしれてもならない。パレスチナ人の主張を承認すると同時に、イスラエルの安全保障にも確証を与えることが極めて重要である。

● ● ●

平和運動には湾岸戦争を防止する力はなかった。それは平和運動が間違っていたという意味ではない。しかし、戦後の外交政策に意味あるインパクトを与えるには平和運動のこれまでのものの方がはるかに狭く、近視眼的であつたと言えよう。反戦運動家たちは、アメリカの将来の進路を左右するであろう戦争後のビジョンについて熱心にじっくりと時間をかけて考えるべきであろう。今こそそれを始める時だ。(訳●田巻一彦)

ルース・ローゼン(カリフォルニア大学教授)

反戦運動はどこにいるのか?

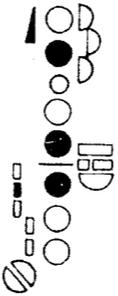
A place for antiwar activism

「ジャパン・タイムズ」(91・3・28号より)

◆タイトル・見出しは訳者

人々はなぜ戦争に熱狂したのか

戦争に沸くアメリカからの報道にうんざりし、気が重くなっていたある日、ふらっと買った「ジャパン・タイムズ」にこの論文を見つけた。著者のローゼン教授については何も知らないけれど、誠実な論考に引かれて一気に訳してしまった。平和運動の立場から湾岸戦争を論じたこのような文章が商業紙(配信は「ロサンゼルス・タイムズ」)に掲載されていることにも少し感動した。もちろんそれだけではない。私たちが湾岸戦後の平和運動を考える上で、非常に多くのことを教えてくれている。(田巻一彦)



アメリカがイラクに対する予想外の楽勝に沸いている中で、反戦運動家たちは自問している。なぜ、自分たちはアメリカ国民がこれほどまで戦争に熱狂するだろうことを予測できなかったのか、そして、戦争後の平和運動はどのような役割を果たすべきなのだろうか、と。

反戦運動家や知識人たちが、国民の気分の振幅を適確につかみそこなつたのには、少なくとも三つの理由がある。

第一の理由は、「ベトナム症候群」からの完全な脱却を求める国民の熱い想いを過少評価したことだ。「神の助けによって我々はベトナム症候群ときっぱり訣別した」というブッシュ大統領の満足げな発言は圧倒的多数の

国民の喝采を浴びた。超ハイテク兵器による「テレビゲーム戦争(アメリカではニンテンドーゲームという：訳者)」は大衆を魅了した。アメリカ人の犠牲が最小限に押さえられたため、戦意は最後まで衰えなかった。

第二に、アメリカの社会的、経済的衰退に一矢をむくきたいと国民は強く求めていたこと、これも反戦運動家たちは過少評価した。国民は冷戦後の世界にあつてもなお、アメリカが道義的リーダーシップと軍事力によって世界を支配しようのだからと信じていたと願ひ、それを誇示することを求めていた。軍事エレクトロニクスの魔術を駆使した戦争の目もくらむような勝利で、国民はエレクトロニクス市場における日本の圧倒的優位や莫大な貿易赤字を一時的に忘れることができた。アメリカはまだNo.1だ。少なくとも戦場では。

反戦運動家が見落とした三つ目の傾向は、一九八〇年代の文化が国民に間に社会における「男らしさの復権」への志向を植え付け、育ててきたことだ。大衆文化は軍国主義を賛美し、ベトナム症候群を攻撃した。一九七〇年代に登場した思慮深く、傷付きやすい「新しい男性像」にとつてかわつたのは、新しくもなんともない「ランボー」のようなキャラクターだった。また、フェミニズム運

読者から

●はじめてのデモで

一月十七日に戦争が始まって、私はびっくりし、何をしていたかわからないけど何かしなくちゃと思いました。

一月二十三日、日市連主催の「日本は戦争を止めさせるために何が出来るか」という集会へ行きました。集会なんて生まれてはじめてでした。学者の人や国会議員の人の話しを聞いただけだったのに次の日の新聞に「湾岸戦争に対する抗議行動」としてその集会のことがでていたので、ふうんあそこに行っていたことが抗議したってことなのか、と不思議な気持ちがありました。

その集会でもらった紙に一月二十六日にデモがあると書かれていました。デモってあのマイクとかで、ナントカハンターイって、あの独特の節回しでみんなて叫ぶあれかなあと、思って、本当はいきたくないなあ、と思ったけれど、他に戦争に反対する意思表示として何していいかなんてわからないので、行こう



かなって思ったのです。ところがその日は仕事があるのでとうてい間に合わない。そこで最終地点の日比谷公園で待ちぶせることにしました。そうしたらやっぱ、あの、「センソウキョウリヨクワ、ヤメロオ」という拡声器を使った重苦しい叫びが、聞こえてくるではありませんか。私、絶対、声出せない。今日仕事があつてよかつたなと思いました。だってなんかイヤなのです。メロディーとして美しくないし、なんか怖い。

私はふだん「〇〇はやめろ」という言い方はしたことはありません。「やめて下さい」か親しい間柄でも「やめてよね」くらいです。だから突然、「戦争はやめろ」と言おうとしたって言えません。それに、誰かに音頭を取られて、それにオウム返し、ということにも抵抗があります。自分の言葉で、ものを言いたい気持ちがあります。

でも、それでも二月十四日の国会請願デモにも参加しました。とにかく、自分は何をしていいかわからないのですから、既成の企画

に乗るしかない、悲しい私でした。声は出せなくても、とにかく一緒に歩こう、と決心していたのですが、その時はシュプレヒコール無しで、歌を歌う、ということだったので、とても救われた思いでした。国会ということでも制約があつたからかもしれないけれど、ホッとしたな。

(鈴木一枝/浦和市)

●許せない戦勝気分

米の戦勝気分を許すことが出来ない。私の感情にB29の大編隊が東京の上空高く太田飛行場に突進する光景が(一九四五年二月十日以来)数回眼底に焼き付いて消えない。四月十三日、十四日未明の焼夷弾空襲で家を全焼された戦災からこのかた米軍の威力憎しの思いが強い。

今、イラク国民を思う時、フセイン大統領の間違いが、日本軍部の間違いのために私たち人生で最悪の歴史を生きた者のびてきた者として考えさせられる。湾岸危機に日本政府は

●憎しみは新しい戦争を...

湾岸戦争は終わりました。しかし武力によって決して真の平和は来ないでしょう。残るのは恐ろしい人の命の無差別殺人であり、環境と地球の生きるすべてのものへの挑戦です。そしてその傷跡は何年も人間の負い目となり、憎しみはまた新しい戦争を生むでしょう。

「湾岸戦争週報」いつもありがとう。とても参考になりました。私たちも教会でデモ、募金、ミサ、宗派を越えて平和のために努力しました。トマ喰い虫の皆様の地道な闘いを支持します。戦争と核にこれからもNO!と言いつづけます。(田中翠/主婦/伊丹市)

●大切な芽生え枯れさせずに

トマ喰い虫読者はいざ知らず、「日本に『市民運動』なんてあるのですか。四十年以上も同じ政権が続いているのは独裁体制とちがうのですか」と言われギョツとしたのは、ずいぶん前のことでした。どこへ行っても金太郎飴の自嘲的な嘆き。しかし、今回の湾岸戦争で「はじめてのデモ」という人が各地にあつたのを覚えています。ところが、連日のTV画面の戦火が起きたのと同じ時に「これで安心ですね」の声。ハテどうしたらこの芽生えが枯れずに育つか、と考えさせられます。



ミッドウエーも帰って来るし、とても安心などできません。大変なのは「これから」と思っています。何もできませんが小さな草の根として固い地でも根付かなければ、と願っています。(S・M/療養中/国分寺市)

●二月上旬より拙著「放浪伝」が発売されております。会員各位の強力なご協力をお願いいたします。(金文善/無職/東京都)

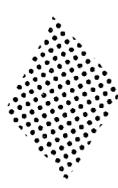
「訂正」前号(第六五号)で投稿者の清水知久さんのお名前を友久と印刷してしまいました。おわびして訂正します。(編集部)

◆投稿、おたよりをお待ちしています。同封の読者カード、便箋、原稿用紙いずれの形でOKです。もちろん、内容も平和に関するものなら何でも自由。イラスト、マンガなども大歓迎です。

◆お名前を掲載してよいかどうか、いけない場合にはペン・ネームなどをお書きそ下さいます。なお紙面の都合で趣旨を損なわない範囲で手を入れさせていただくことがありますので、ご了承ください。(編集部)

何時までも日本の基地を勝手にままにさせている日本政府。わが者顔での戦勝気分を米航空母艦ミッドウエーなど歓迎しない声を伝えて下さい。この声を大きくしないとズルズルと(地方選での自民圧勝におごり)法改正、憲法改悪にまでおよび、またしても軍事大國の道をまっしぐらに進むこととなります。許しません。

(M・S/横浜市)



会計報告

91. 3. 16~4. 15

[収入]

○前月からの繰越	106,157
經常繰越	256,157
借入金繰越	△150,000
○今月の収入	128,841
会費収入	81,000
内	
維持団体	0
維持個人	40,000
参加団体	0
参加個人	14,000
通信会員	27,000
カンパ収入	32,000
行動収入	10,841
資料収入	5,000
反核ホットライン収入	0
アンケート調査収入	0

[支出]

●今月の支出	233,868
家賃(4月分)	30,000
水道光熱費	8,339
電話代	31,046
郵送費	37,839
文具代	0
印刷費	15,510
行動費	105,714
資料経費	3,190
反核ホットライン経費	0
アンケート調査経費	0
雑費	1,030
郵便振替等手数料	1,200
●次月への繰越	1,130
經常繰越	151,130
借入金繰越	△250,000

お願い●様々な行動で出費がかさんでいます。またまた財政がピンチになってきました。会費の納入、カンパを宜しく願っています。

ひさかたぶりの 編集後記

●初めての平和船団体験。正午からはゲート前で兵士によびかけるビラ撒きに。反応は正直いってツレなかつたけれど、時たま立ち止まり耳を傾けてくれる顔に励まされながらの数時間でした。新しい仲間とともに、この力を何倍、何十倍にもしていかなきゃ。(ま)

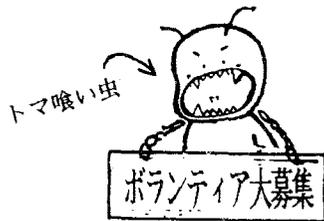
●ゴムボートにのってミッドウェー戦闘団の帰還に抗議した海上デモから数日。今編集後記を書いている僕のお尻は堅いイスの上の上のってはいいても、あの日の波の柔らかな感触が忘れられず、またもういちどと求めているようです。(お)

●横須賀報告、いつになく感傷的な文章になつてしまつて恥ずかしい恥ずかしい。湾岸戦争が終わつたら遊びにいろいろなどと話していた子供たちに、すまんすまんと頭をさげつつ今日もお父さんは行くのである。なんだかわからないけど、とにかく行くのだ。(田)

●ミッドウェー入港の日、海上デモをやつたり、米兵にビラをまいたりしたその直後、ラジオで池田防衛庁長官の歓迎のあいさつを聞きました。どういふ気持ちになつたかわかつていただけます?(な)



いっしょに トマ喰い虫 しませんか?



●「トマ喰い虫」は100%手作りのニュースです。ミニコミに興味のある人、今一番新しい平和運動を知りたい人。イラスト、デザインおもしろそう、と思う人。ワープロ打ちならまかせなさい、ムフフ、の人。ひそかに覚えてみようかな、なんて思ってるあなた。ちょっとづつでも一緒にやりませんか?

●毎月20日直後の日曜日は発送の日。午後2時から日吉(横浜の一番東京より)のトマ喰い虫社分室で。次回は

5月19日(日)午後2時から
(26日はヨコスカで行動です)

月刊トマ喰い虫第八十八号

一九九二年四月二十日発行(通巻六十七号)

*発行 トマホークの配備を許すな! 全国運動

〒一五〇 東京都渋谷区渋谷二一五一九

バル青山五〇二 トマ喰い虫社

☎〇三(三四九八)六〇九五

〇四五(五六三)五一〇一

FAX〇四五(五六三)九九〇七

郵便振替 東京六一三六一四八

*編集 トマ喰い虫編集委員会

*定価 一〇〇円(通信会員年間二〇〇円)

資料①

池田行彦防衛庁長官殿

湾岸戦争を賛美する

空母ミッドウエー 歓迎式典への

参加中止を求める申し入れ

一九九一年四月二一日

トマホークの配備を許すな！全国運動／
日本はこれでいいのか市民連合／ピース
ネットニュース／カトリック正義と平和
協議会／日本キリスト教協議会／日本キ
リスト教協議会平和委員会／反核パシフ
ックセンター東京／神奈川を非核にす
る県民運動／NEPAの会／非核市民宣
言運動ヨコスカ／厚木基地を考える会

横須賀を母港とする空母ミッドウエーとそ
の随伴艦であるトマホーク搭載のイージス巡
洋艦モービルベイ、同じく駆逐艦ファイフな
ど五隻の軍艦が、四月十七日朝帰港します。
これに対して、海上自衛隊が護衛艦による出
迎え、放水などの歓迎行事を行い、防衛庁長

官自ら歓迎式典に参加する予定であることを
知りました。海上自衛隊による歓迎行事はす
でに四月八日、トマホーク搭載イージス艦バ
ンカーヒルの帰港時に行われています。私た
ちはこれに抗議し、いっさいの歓迎行事と長
官の式典参加の中止を求めます。その理由は
以下のとおりです。

●ミッドウエーやトマホーク搭載艦は過
去に例のない大量無差別爆撃とミサイル
攻撃の主役でした。その犠牲者は十万人
とも二十万人ともいわれています。日本
国民の多数は一貫して湾岸危機の非暴力
的解決を願ってきました。この世論の力
が自衛隊海外派兵を狙った「国連平和協
力法」を廃案とし、難民救援の民間機チ
ャーター運動、九〇億ドル戦費拠出反対

運動の大きな高まりを生みました。「暴
力の象徴」とも呼ぶべき軍艦を歓迎する
ことは戦争と大量殺戮の賛美であり、憲
法の非暴力主義、平和主義への挑戦であ
ると同時に日本政府の戦争協力が国民の
合意を得ていないことを無視した重大な
背信行為です。

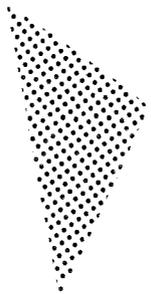
●日本を母港にする軍艦の出撃を含め在
日米軍基地の湾岸戦争のための使用は、
「日本国の安全に寄与し、並びに極
東における国際の平和及び安全の維持に
寄与するため、アメリカ合衆国は、その
陸軍、空軍及び海軍が日本 国におい
て施設及び区域を使用することを許され
る」(第六条)と定めた日米安保条約へ
の明白な違反です。また、在日米軍が事
前協議なしに戦闘行為に参加したことは
同条の実施に関する「岸・ハーター交換
公文」(一九六〇年)に違反しています。
同公文には、「日本国から行われる戦闘
作戦行動(日本の領土が攻撃された場合
を除く)のための基地としての日本国内
の施設及び区域の使用」は事前協議の対
象となると記されています。一方、横須
賀から出撃した三隻のトマホーク艦はす
べてトマホークを発射したことは種々の

報道により確認されています。ミッドウエーの艦載機が爆撃に参加したことも疑いありません。

防衛庁長官が「歓迎」の前にまずなすべきことは、これら国際条約、国際合意への違反を米国に質し、外交・安全保障上の主体性を回復することではないでしょうか。

●米国はこの夏までにミッドウエーに代えてさらに大型で新しい空母インディペンデンスを横須賀に配備しようとしています。防衛庁長官の歓迎式典への参加はこの軍拡政策を支持し奨励することを意味します。核兵器を巻き込んだ事故への不安、艦載機の騒音被害、墜落の恐怖を日々感じながら、基地の縮小・撤去を願う市民に冷水を浴びせるこのような行為は断じて認めることはできません。

憲法の平和主義と非暴力主義がゆるぎない日本と世界の原理となることを願う市民として、以上のことを強く申し入れます。



資料② 兵士向けチラシ

ペルシヤ湾から帰還した兵士のみみなさんへ

戦争は正義を実現しない

「お帰りなさい」とは

言えません

今日は、半年ぶりに横須賀に帰ってきたみんなが気分ですか。きつと家族や恋人と再会して心もほぐき立っていることでしょう。

でも、残念ながら私たちは皆さんを「歓迎」する気持ちにとてまられません。皆さんの船がそこへ何をしていたかを知っているからです。艦載機の爆撃とトマホーク攻撃によって一〇万以上の市民や兵士が死んだことを知っているからです。皆さんが去ったあとのペルシヤ湾には死と破壊と絶望と憎しみだけが残されました。皆さんが家族や恋人と抱き合っている今、何一〇〇万もの家族や恋人たちが悲しみのどん底で泣いています。

湾岸戦争は、中東地域の平和と安定を回復するための正義の戦争だったと、ブッシュ大統領は言っています。その言葉をまじめに信じていますか。

正義の戦争、なんと皮肉な言葉の取り合わせでしょう。

To the soldiers back from the Persian

WAR CAN NEVER REALIZE JUSTICE Why We Can't Say "Welcome Back"

Message From the Citizens for

How does it feel to be back in Yokosuka after months away? You're probably happy to be reunited with family and loved ones. Maybe you've even put the war behind you. But we help but think about the 100,000 war victims, million refugees who still suffer from the war of the victims were killed by bombing and attacks of the TOMAHAWK's. You are safe and sound, but the deaths, desolation and enmities originated through the Gulf War will affect families in the Middle East years to come.

Your President G. Bush claims the violence was necessary to bring peace and stability to the Gulf. But peace and stability for who? And what was gained by the mass slaughter, whole scale desecration and ecological sabotage?

うか。戦争は殺人と破壊以外の何ものでもないのに。湾岸危機は戦争ではない非暴力的な方法で解決するべきでしたし、それは可能でした。日本国民の多くはこう考えています。ですから、今日皆さんの「歓迎式典」に参加した、防衛庁長官、横須賀市長をして政治家たちは決して日本国民を代表していません。

私たちはみなさん一人一人を非難しているのではありません。ただ、ともに手をとりあつてこの戦争のもたらした現実を目をそらす様子に見つめ、二度とくりかえさない道を探ろう、とまよひかけたのです。いかなる国際紛争も、戦争にはなく非暴力的に解決する世界、それは夢ではありません。「非暴力」を世界に実現するために、力をあわせましょう。

戦争についての皆さんの考えや気持ちを教えてください。下記に手紙を書いてください。匿名で構いません。